

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2600500042		
法人名	有限会社さざなみ		
事業所名	さざなみ京都南 (3F)		
所在地	京都市南区上鳥羽奈須野町23		
自己評価作成日	平成26年7月8日	評価結果市町村受理日	平成26年8月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1F		
訪問調査日	平成26年7月18日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設近隣地域とのふれあいやつながりを大切にしています。運営推進会議を起点として委員の皆様との情報交換、地域行事(夏祭りや、七夕祭り、上鳥羽小学校でのかるた取り大会等)への参加を利用者様と共に積極的に行っております。入居者様は勿論ですが、スタッフも地域の一員であり、地域福祉の増進に貢献する という思いを持って日々の業務に取り組むようにしています。内部においては、各フロアのベランダで、家庭菜園をして野菜等の成長を利用者様と一緒に楽しんでおります。開設一年目ということもあって施設内での雰囲気や入居者様同士のきずな等少しずつではありますが深まってきていると思います。この施設に来てよかったと思ってくれるような「明るく、笑いのある、楽しく、自由な」施設にしたいと思っております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

京都市南区上鳥羽に位置し、近くを京都南インターが交差している地に、有限会社「さざなみ」が設立した四階建の建物がある。一階が小規模多機能型居宅介護事業所とし、二階から四階をグループホーム「さざなみ京都南」とした三ユニットの事業所である。有限会社「さざなみ」の理念を『自由に』『楽しく』『ありのままに』とし、さざなみ京都南事業所として、更に『残された力で暮らす』『家庭的な、愛にあふれた暮らしを』『地域との交流と連携を図る』を加えて、全職員で共有して実践に努めている。特に、食事にはこだわりを持ち、一般家庭で日常的に食卓に載せている献立を中心に提供している。敷地内にある「菜園」で、なすび・胡瓜・ミニトマトなどを栽培し、又各階のベランダではプランターで貝割菜や青ネギ等を入居者と共に育てている。収穫した野菜はその日の献立に加え楽しんでいる。地域の住民とも散歩や夏祭り等の行事に参加して友好関係を築いている。近在の高校生が来所し、掃除をしたり「折紙」や「切り絵」を入居者と一緒で作って、若い世代との交流の機会が出来ている。入居者は、おだやかにやさしい笑顔で、それぞれ思い思いの場所で過ごされている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を朝礼で唱和して職員間で共有しています。	理念と心構えを毎日の朝礼で唱和している。キッチンの戸棚にも掲示して職員の意識を高め、実践している。家庭のように穏やかにすごしてもらう為、例えばレクリエーション一つとっても、その日の様子を見て「何をしましょうか？」と入居者と話し合っ決めてようしている。全てにおいて「家庭的な愛」を意識した支援を提供するよう心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事での積極的参加をさせて頂いております。たとえば夏祭りにかかわる費用も協力させて頂いております。	町内会に入会し会合にも出席しており、回覧板でも地域の情報を得ている。地域の夏祭りが、近くの公園で開かれるので、事業所のレクリエーション担当職員が一つ出店(サイコロゲーム)を受け持っている。入居者も参加して、地域の知人等と共に楽しんでいる。高校生やカラオケのボランティアの来所がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「ヘルストロン」という電流で体を整える健康器具を地域の皆様へ無料で提供しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様やサービスの実態、評価の取り組み状況等について報告、話し合いをしてサービスの向上にいかしております。	自治会長・包括支援センター職員・家族・利用者・事業所管理者・職員が参加している。入居者の近況・行事・事故等の報告を行い、出席者との意見交換を行っている。食事(ご飯)の量が少ないのでは？との意見が出て、お代わりが出来る事を説明し理解を得ている。	議事録の様式を統一したものにされることをお勧めします。ファイルして、家族等の来所時に見て頂く事と、全職員が目を通し運営推進会議の内容を理解してもらう事が大切と思われます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者には、事業所の現状を報告し、必要ときには助言を仰ぐようにしています。	行政が行う介護保険制度の説明会やセミナーに出席している。日常的には、ほとんど区役所を訪問する事はないが、相談事項があればアドバイスをもらえる様にしている。	現在、運営推進会議の議事録は区役所に郵送で提出されていますが、やはり持参して言葉をかわしておかれる事をお勧めします。会話の中から、お互いに情報交換が出来る機会になるのではないのでしょうか？

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議の勉強会において、身体拘束についての研修を予定しております。	「身体拘束をしないケア」に関する勉強会や研修を実施し、全職員に認識させている。過去の離設の経験を踏まえ、玄関は施錠している。行動を抑制する言葉に対しても、職員が互いに注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払	職員会議の勉強会において、虐待についての研修を予定しております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護初任者研修で学んだこと、職員会議で話し合ったことから、ある程度の知識は理解しているつもりです。個々の必要性に応じて支援していきたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設での生活を希望される方は、入居前に体験入居して頂く事もあります。体験入居で不安や疑問を解消して頂く事ははかっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の家族が訪問された時、意見や要望を聞かせて頂き、職員会議とりあげ、解決法を話し合います。	家族等からの意見・要望は、来所時に話し合っ聞き取る機会としている。入居者からの意見は、日常的に会話や行動・表情・仕草等から汲み取っている。嚥下能力が低下した入居者の対応を、家族等とミキサー食やゼリー食の試食会を開き意見交換をして、専門業者の介護食の利用を決めた事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	提案箱(無記名)を設けて運営に反映させております。	日常的に、職員自らの「気づき」を促して改善に繋げる様に努めている。リーダー・サブリーダー会議で職員の意見を纏め、職員会議にあげて更に意見交換して改善方法を検討し、実践している。服薬管理について意見交換し、ルールを決めて実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ベランダでガーデニングをする事や、空いたスペースの活用にも、理解して頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初めてシフトにはいるニュースタッフには、経験のあるスタッフと2人体制で指導しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	セミナーの参加を促し、同業者の方とコミュニケーションの機械を作り、名刺交換等して、相互訪問の活動しています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前必ず本人と出会い、情報収集をするようにしています。入居初日も、面談を行った者がそばについて、不安を取り除くようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には、必ず施設に足を運んでもらい(ご家族様)見学及び概要説明を行っています。入居当初はご本人も不安な為ご家族に連絡を取り合うなかで、信頼関係を築いております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族との面談のなかから必要とされていることを確認して、スタッフと話し合いながら支援にあたっています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	いつでも「逆の立場だったらどうか？」という思いを持つようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来訪されるご家族の写真をとり、フロア一廊下のパネルに展示するようしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様と馴染みがあった人達が面会に来られた時、職員が暖かく対応して、また来訪して頂けるようにしています。	入居者の友人や知人が来所され、おしゃべりをしながら、事業所のおやつと一緒に食べられる事もある。気安く来所できる雰囲気作りをしている。地域の夏祭りや城南宮の秋祭りに出掛け、友人や知人との再会を喜び合っている。年賀状のやりとり等の支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席や、ホールでの過ごしかなど、職員が工夫をして対応しております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者様が退所されたあとも、通信などを使い様子を伺う事をしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いや暮らし方の希望、意向等日々コミュニケーションをとりながら、把握するように努めております。	入所前に、管理者か介護支援専門員が本人・家族等に面接し、生活歴・心身状況・意向等を聞き取りアセスメントシートに記録している。入所後は、日常生活の中で会話や行動・仕草等から、希望・意向を把握している。意思表示の出来ない入居者には言動・表情や仕草等からくみ取って情報を追加している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイルを閲覧したりして、その方の過去を理解するように努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	午前、午後のバイタル、食事摂取量、水分摂取量、排せつ、等から心身の状態の把握に努めております。		

京都府 グループホーム さざなみ京都南(3F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝のフロアミーティングで介護の方向を話し合い、申し送りに記入して、ご家族様が来訪されても、誰でも利用者様の様子を説明できるようにしております。	日々の介護支援状況を記録し一ヶ月で纏めてモニタリングを行っている。本人・家族・友人等から得た情報も加えて、介護計画作成担当者・介護職・看護職等が話し合い、現状に即した介護計画を作成している。概ね六ヶ月で見直しているが、変化があれば、随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様それぞれの日々の状態、状況を申し送りノートや記録用紙に記入して、記入した内容を読み伝えます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズを強く主張される利用者様、主張されない利用者様もおられますが、その都度の適切な対応が大切だと思います。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設のまわりが田園畑や公園で静かな環境にあります。お散歩したり、畑仕事をされている人とお話しができるように支援しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に医療機関が施設に毎月往診に来ていただいています。往診以外にご本人のかかりつけ医に受診して、適切な医療を受けられるように支援しております。	入所時に、本人・家族等からかかりつけ医の希望を聞き支援している。又、事業所は、近在の往診センター・歯科・薬局と連携関係を築き、希望者への支援に繋げている。緊急時には、往診センターの指示が受けられる仕組みが出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常駐の看護師が勤務しております。訪問看護師との連携もあり利用者様が適切な支援を受けられるように支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	施設での看護サマリーを入院時に提供して情報を交換します。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者様の身体の急変には、看護師が対応しておりますが、ターミナルケアのありかたの学習は、早急に開催して頂き支援にとりこんでいきたいです。	契約時に、医療的な処置を要する場合(経管栄養・胃ろう等)は事業所として対応が困難である事を説明して理解を得ている。本人の状況に応じて家族等と話し合い、治療を要する場合は、医療機関へ、重度化の場合は近在の介護施設(特別養護老人ホーム等)への入所も視野に入れていく。その為に、日常的に介護施設等と双方向で情報交換している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については、職員などでも話し合っております。緊急時の連絡の順番や方法については、貼り紙にして電話のそばに貼っております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練は、年2回行っています。実際火災が起こった状況での訓練をしました。	消防計画に、消防用設備等の点検・消防訓練・地震対策等細かく組み入れて作成している。避難訓練は、年二回実施して職員に周知させている。備蓄は現在の所、水を保管している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「丁寧な言葉で、優しく、謙虚にケアを行います」施設全スタッフの約束ごととして、朝礼で毎日確認しております。	「マナーについて」の研修を実施し、更に、「職員の心がまえ」としての留意事項を明確に示している。一人ひとりの尊厳を重んじ、プライドを傷つけることなく、プライバシーを損ねない支援に努めている。特に、排泄・入浴時等の支援には留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や食事等は、その日の体調や、気分があり、利用者様の意志を尊重しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースは大切にしていますが、更衣拒否、入浴拒否が続くと困る事もあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回のヘアカットをしています。化粧や身だしなみについては、ご本人にお任せしております。		

京都府 グループホーム さざなみ京都南(3F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや後かたづけを一緒にいき、ご本人の気持ちを大切に支援しております。	本部で栄養士が献立を作成している。それに基づき事業所の調理担当職員が二階の厨房で調理し、各ユニットに配膳している。敷地内にある菜園や各階のベランダで採れた野菜を食卓にのせ話題を提供している。職員は、声かけをしながらやさしく見守り和やかな雰囲気になっている。食後は、それぞれが下膳し、思い思いの場所でくつろいでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎回必ず記録しております。水分摂取量も同一用紙に記入して1日トータルで確認できるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後に必ず行うようにしております。利用者様には口腔ケアに全く非協力的な方もおられます。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排せつの時間を把握し、トイレ誘導を行っております。	排泄記録により排泄パターンを把握している。トイレでの排泄を支援しているが、本人の希望で居室にポータブルトイレを置いて利用しているケースもある。昼は、リハビリパンツとパットの組み合わせにして、夜は紙おむつとパットの組み合わせをしている場合もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のコントロールが困難な方については、ドクターと相談しながら服薬で調整しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	介護者は、ご利用様が女性の場合は、女性にしています。日常の事等を話しながらリラックスして頂けるように支援しております。	入浴をゆっくり楽しめる様に、一日三人を目途にしている。毎回浴槽の湯を入れ替えて、気分良く楽しんでもらっている。アレルギーや好みもある為入浴剤は使用していない。入浴拒否の入居者も、なんとか浴槽に浸かって貰うと気持ちよさそうな表情をされるので、出来る限り入浴してもらえる様に努めている。	



京都府 グループホーム さざなみ京都南(3F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のタイミングで就寝して貰っております。昼夜逆転の利用者様もおられ、その修正は毎日のカンファレンスで意見交換しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	下剤の服薬は排便の状態をみて臨機応変に対応しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	フロアや廊下の掃除をされたり、食事前のテーブル拭きなどされる利用者様がおられます。ご本人様が生き生きされているので良いことだと思っております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、近くの公園迄散歩します。外の空気に触れたり、1階の庭で野菜の収穫を、利用者様と共にします。	日常的には、近くの公園に散歩に行き、時にはアイスクリームを買って食べたりして楽しんでいます。敷地内の菜園で野菜の栽培をして、外気浴・日光浴の機会にしています。ドライブに出掛ける事もあり、季節的には、花見や紅葉見物・初詣には城南宮に出掛けて時の流れを感じている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所当初、預かり金として1万円お預かりしています。ご本人が欲しい物があれば、預り金でお買いものをします。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの電話は制限なく取り次いでおります。手紙に関してもやり取りができるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の希望を取り入れ、家族と相談しながら長年使い慣れた家具等も配置してご本人が居心地よく過ごせるように工夫しております。	リビングは、ゆったりと広く明るい。テレビを囲んでソファが配置され、好みの番組をみている人や気の合った人同士でおしゃべりを楽しんでいる光景があった。不快なおい音もなく、静かな落ち着いた雰囲気になっている。リビングに続いてキッチンがあり、リビング側にも流しが設置されていて、入居者が洗い物が出来る様に工夫されている。ペランダには、プランターで野菜が栽培されている。	

京都府 グループホーム さざなみ京都南(3F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	隣に座る人や気の合う関係も自然な形で形成され、職員もつかず離れずの距離を大切にしています。一人になりたいときは居室に行かれたり、自ら関を離れられるので、その意思を尊重しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様によって居室の家具の配置は様々です。居室の掃除は毎日させて貰っております。清潔で居心地の良い居室の工夫をしています。	居室の窓は大きく、明るい陽射しが入っているが、窓に遮光フィルムを貼り、暑さを調節している。適度な広さがあり、それぞれ使い勝手よく家具を配置して落ち着いた部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーのフロアに、廊下には手摺がついており、安全面にも配慮した工夫になっております。		